

12月15日(水)

⚙️ グリアとニューロン：機能調節とその可塑性  
[グリアデコード] [臨界期生物学]

次世代脳プロジェクト  
冬のミニポジウム 2021



[グリアドコード] [臨界期生物学]

## グリアとニューロン：機能調節とその可塑性

12月15日(水) 13:00 - 17:35

■岡部 繁男【東京大学】

■狩野 方伸【東京大学】

神経系は、生後発達期や傷害後回復期という特定の時期に受けた刺激の影響によって、その機能を大きく変容させることが知られている。また、神経系は神経細胞のネットワークと、それと密接に相互作用するグリア細胞群によって、多様な機能を発現することが知られている。神経細胞とグリア細胞が有する時間的・空間的なスケールの異なる情報とその相互作用を読み解き、脳の機構を生物学的に解明することは、柔軟で適応的なシステムとは何かを深く本質的に理解することであり、発達障害や精神神経系疾患の診断や治療の開発への貢献も期待される場所である。本ワークショップは、令和2年度に新たに発足した学術変革領域「グリアドコード」と「臨界期生物学」から全8名の若手スピーカーを集め、機能調節と可塑性の機構理解に向けたそれぞれのアプローチや現状を報告し合い、学問領域の変革につながるビジョンのあり方について議論する。

### <タイムテーブル>

13:00 ~ 13:05	はじめに 岡部 繁男 (東京大学 / グリアドコード)
13:05 ~ 13:35	海馬新生ニューロン貪食におけるミクログリア突起のユニークな役割 亀井 亮佑 (東京大学 / グリアドコード)
13:35 ~ 14:05	ミクログリアによるシナプス貪食機構の解明 安藤 めぐみ (東京大学 / グリアドコード)
14:05 ~ 14:35	グリア細胞のシグナル伝達分子活性の可視化 幸長 弘子 (京都大学 / グリアドコード)
14:35 ~ 15:05	局所脳血流の光操作技術の開発 阿部 欣史 (慶應義塾大学 / グリアドコード)
15:05 ~ 15:20	休憩
15:20 ~ 15:50	視床体性感覚野におけるシナプス前機構の発達過程 緑川 光春 (東京女子医科大学 / 臨界期生物学)
15:50 ~ 16:20	The role of interpersonal synchrony in a dyadic interaction Jessica Tan (東京大学 / 臨界期生物学)
16:20 ~ 16:50	中枢神経障害後の AMPA 受容体発現変化と機能代償 阿部 弘基 (横浜市立大学 / 臨界期生物学)
16:50 ~ 17:20	臨界期の E-I balance 下ネットワークにおける情報処理 金丸 隆志 (工学院大学 / 臨界期生物学)
17:20 ~ 17:35	総合討論